

教育支援だよりは、先生方と支援教育に関する「こんなこと良かった!」「役に立った!」といった情報共有を目的に発行しています。瀬谷支援学校の取り組みを多くの方に知ってもらうためのおたよりです。

今回は、前副校長の藤田先生にお願いしていたコラム記事の続きになります。

～ 自傷行為のナゾを解く!?～

—その8—

～前回までのあらすじ～

頭部の自傷行為が多かったAさん。その行動について、Aさんが自傷に及んでしまう時の環境や状況などを分析していくと、「一人で過ごすことによってヒマで非常に不安な状態におかれる」と自傷行為に及んでしまうことがわかりました。Aさんにとって一番安心する状態は、「大人が近くにいる」ことでしたが、卒業後を見据えると、ほかの手立ても必要になってきます。そこで、Aさんの周りの環境を調整することで、不安を取り除くことにしました。

麦ジュースがない環境
 ★は耐えられない!



③ 最初は教員がとなりに座り、そばにいることを言葉でAさんに伝える。

卒業後を見据えてとはいえ、急に大人がそばにいない環境を作っては、Aさんにとって辛いものです。そこで、徐々にAさんと教員の距離を離す手立てを取りました。最初は隣に座り、次は手を伸ばせば届く距離…と、次第に距離を離しつつも、「そばにいるよ」と、Aさんが安心できるよう言葉を伝え続けました。

④ 一人でも楽しみながら過ごせるものを見つける。

Aさんと過ごす中で、彼が非常に音楽好きであることがわかってきました。ただ、これまでは「歌って」や「音楽に合わせて一緒に踊って」など、大人と関わりながらでしか楽しむことができませんでした。

そこで、ミニスピーカーを試してみることにしました。メッシュのふくろに入れ、首から下げて聞くことを試してみると、次第に一人で過ごせる時間が伸びていきました。

曲目についても、クラシックやJPOP、ジャズに演歌まで試して、Aさんのお気に入りの曲を探していきました。すると、家族がよく聞いていたロックバンドの曲がお気に入りということもわかりました。

おわりに

Aさんが自傷に及んでしまう原因を、環境や状況から分析することでAさんに合った環境を整えることができました。その結果、次第に自傷行為が減っていき、一人で過ごせる時間も長くなりました。

今回で、藤田前副校長のコラムは最終回となります。皆さんも、ぜひ目の前のお子さんに合った環境を分析し、環境を整えてみてください。



H.C.R. 国際福祉機器展 へ行ってきました

こんにちは、作業療法士の岡本です！10月にH.C.R.に参加してきました。体験してきたものの中から、自宅や学校で子どもたちが活用できそうなものをご紹介します。

H.C.R.はハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボットまで、世界の福祉機器が集まるアジア最大規模の国際展示会です。スプーン等の小物や入浴用品などの日用品、車椅子や福祉車両など、また学習やコミュニケーションに使えるICT機器などを実際に触ったり体験したりできます。

座位保持クッション

座位姿勢を保つのが苦手な方の補助に



P!nto Kids
ピントキッズ
(PAS)



LAPS Kids
ラップスキッズ
(タカノ株式会社)



CAGAC
カガック
(丸菱)

ペン型スキャナー

文字をスキャンすると読み上げてくれる。視力の弱い方、聞く方が理解しやすい方などに



食事の補助



ミールキャッチ(ピジョン タヒラ)
好きな食器に取り付けることでかえしのある壁ができ、すくう動作を補助してくれる



とろみ飲料(大和製罐株式会社)
とろみ付きのほうじ茶、緑茶。
賞味期限が3年間。災害時の対策として
災害対策として。

余暇支援機器

一般的なゲームコントローラーでは操作し難い場合、外部スイッチなどを接続できる機器



Flex Controller(株式会社 ホリ)

感覚環境の共有



小田急百貨店ふじさわ 階段脇の休憩スペース

センサリーマップ Calmspot(感覚過敏研究所)
感覚面についての環境情報を共有・確認できるアプリ
音や光の強さなどの情報や、カームダウンスペースの場所などがわかる

近年は災害対策用品や電子機器が増えてきている印象ですが、座位保持クッションなど以前からある物品も種類が増え、選択肢が広がっています。

自分が使い易いものを見つけて、より生活しやすくなったら良いですね。

今回紹介した機器等で気になるものがあれば、作業療法士 岡本までお問い合わせください。